

科目	日本史学A (Japanese History A)		
担当教員	深見 貴成 教授		
対象学年等	全学科(旧)・5年・前期・選択・1単位【講義】(学修単位I)		
学習・教育目標	C3(80%), D2(20%)		
授業の概要と方針	本授業では,20世紀前半の日本の政治・社会・文化について取り扱う。日露戦争後以降の日本は,いわゆるデモクラシーが進展した時代であったが,1930年代に入ると急速に戦争の時代へと移り変わる。それはなぜなのか。明治以降,急速に大都市となった神戸の状況を取り上げながら,この時期の日本について理解を深めたい。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	【C3】歴史の流れについて理解を深めることができる。		歴史の流れについて理解を深めることができるか,試験および授業内課題によって評価する。
2	【C3】歴史資料を通じて歴史学のあり方を学ぶ。		歴史資料を通じて歴史学のあり方について,試験および授業内課題によって評価する。
3	【D2】日本と他国との関係について理解を深める		日本と他国との関係理解について,試験および授業内課題によって評価する。
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験60% 授業内課題40% として評価する。これらを総合して,100点満点で60点以上を合格とする。思考しそれを文章として表現する力を養うため,特に授業内課題を重視する。		
テキスト	成田龍一『大正デモクラシー』(岩波書店,2007年)		
参考書	原田敬一『日清・日露戦争』(岩波書店,2007年) 牧原憲夫『客分と国民のあいだ』(吉川弘文館,1998年) 松沢裕作『町村合併から生まれた日本近代』(講談社,2013年) 大豆生田稔『お米と食の近代史』(吉川弘文館,2007年) 藤井忠俊『国防婦人会』(岩波書店,1985年)		
関連科目	1年「歴史」,2年「歴史」,5年「日本史学B」		
履修上の注意事項	授業では毎回課題をおこなう。教科書を必ず持参すること。		

授業計画(日本史学A)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	導入——日本の歴史を学ぶ意義	日本史を学ぶにあたって、その意味をこれまでの研究史から考える。また歴史資料とは何か、そしてその大切さについて考える。
2	日露戦後の日本社会の変化	明治維新後の日本の歩みの概略を確認し、日露戦争後の日本社会が再編成されていく状況を学ぶ。
3	第一次世界大戦と日本社会(1)	第一次世界大戦が日本に与えた影響と帝国主義の時代における日本の位置を知る。またアジア諸国と日本の関係について確認する。
4	第一次世界大戦と日本社会(2)	対外硬派と民本主義について学ぶ。
5	社会問題の発生とデモクラシー(1)	大戦景気とその後の不況が日本社会に与えた影響の中で、特に社会問題の発生とその対応を知る。
6	社会問題の発生とデモクラシー(2)	社会問題をどう再発見したか、そして女性運動について学ぶ。
7	社会問題の発生とデモクラシー(3)	デモクラシーの実際の政治過程を学ぶ。
8	中間試験	1～7回の授業範囲について中間試験をおこなう。
9	憲政の常道	普通選挙実現とその前後の政治過程の意義について学ぶ。
10	近代日本における「国民」	明治期から大正期までの「国民」化について考える。
11	国民・民衆と戦争(1)	昭和恐慌とその後の満州事変が国民・民衆とどのような関係にあったかを学ぶ。
12	国民・民衆と戦争(2)	前週に同じ。
13	国民・民衆と戦争(2)	帝国としての日本を満州移民から考える。
14	歴史資料保存について	歴史資料を保存することの意味を考える。
15	本授業のまとめ	20世紀初頭の日本の動向についてまとめ、世界の中での日本について考える。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する。	